庶民の会
本多（ほんだ） 松弘（まつひろ） 議員

安心で住みよいまちづくり

Q 日本一の自主防災会組織の編成が安中地区に続き白山地区でも行われる中、４千人を超える規模で行われた避難訓練の成果と問題点は？また、学校の協力で子育て世代の参加も多かったが、早めの検証を。

A 成果は登校日としたため、子供たちが地域と一体となって避難できたこと。反省点は開催までの準備期間が短く、避難場所の選定が混乱した。保護者アンケートを早いうちに行いたい。

Q 自主防災会組織の安定した活動資金の確保について。

A 昨年度から５万円を限度に自主防災組織活動補助金を交付している。自主防災会組織の強化については、市としても重要な課題であり、国、県と連携しながら支援を行っていきたい。

健康で自立と生きがいを支えるまちづくり

Q 健康寿命を伸ばし医療費を抑えるためにウオーキングアプリの活用について。

A 県で健康づくりアプリの導入を検討しており、県と連携してのアプリの活用は可能である。

統合型校務支援システム

Q 進捗状況と期待される効果について。

A 今後の維持管理経費を含め再検討中。効果は、業務の効率化が図られ、子供たちと向き合う時間が確保されることにより、教育の質の向上が期待できる。

Q ネットワークの組み方で金額が異なり、費用対効果の検討が必要では。

A ネットワークは必要だと考えるが、費用等も比較しながら、県内市町の導入状況、費用対効果、将来性も含め再検討をしている。

【その他の質問項目】
- ◇自主防災組織の現状とこれからのビジョン
- ◇まちづくり協議会について
- ◇マイナンバーカード、島原ＬＩＮＥ、防災メールの普及計画について
- ◇舞岳山荘の進捗とこれからの計画について

眉山クラブ
松井（まつい） 大助（だいすけ） 議員

築城４００年に関し

Q 記念事業の事業名は。

A 築城開始から４００年に当たる平成30年度に「島原城築城４００年記念事業実行委員会」を設立し、築城４００年の２０２４年（令和６年）までの７年間を事業期間とした。

Q 記念事業の内容は。

A 歴史・文化の伝承、城下町にふさわしいまちづくりの推進を図るため、ソフト事業としてこれまでに島原城一斉清掃や島原みらいキャンパスなどを開催し、ハード事業として島原城周辺の無電柱化を進めている。また、本年度は矢狭間塀の塗り直しと、その傷んだ瓦の補修や取替えを行い、来年度以降は天守閣の外壁の塗り直しと瓦のふき替えなどを計画している。

Q 事業の周知の仕方は。

A 島原城におけるＰＲ活動をはじめ、イベントや講座の開催により島原城に親しんでいただき、城下町として繁栄してきた歴史に触れていただく機会を設けている。特に、令和５年度に開催が決定している全国城下町シンポジウムは築城４００年に向けて大きな弾みになると期待している。

Q 大雨で石垣が崩れ改修されたが、その下側の水堀は作業の足場として埋められ、長い時間が経過し現場は荒れている。島商下の沼、時鐘楼下の一角、菖蒲園跡地、ゲートボール場、その南側の石垣は本来の石垣ではなく蛇籠が積んである。４００年を目指し、一つでも手をつけられないか。

A 堀の改修については、歴史資料など調査を進め、専門家の助言を受けながら、現状変更に対して県の許可を得る必要があるので、県とも連携して取り組む必要がある。長崎県指定史跡島原城跡保存活用計画に基づき、江戸末期の姿に戻していく方向で島原城を保存していきたい。

【その他の質問項目】
- ◇城が県の指定を受け、どの様に変わったか
- ◇鉄砲町のまちづくりについて
- ◇武家屋敷売店閉鎖について